

二十五回忌法要 表白

敬つて

大慈大悲の阿弥陀如来の尊前に

白して言さく

本日ここに

有縁の人々 相集い

恭しく仏前を荘嚴し

懇ろに聖教を拝読して

法名 釈 の

二十五回忌法要を勤修し奉る

つらつら惟れば

三界は安きことなく なおし火宅の如し

たまたま 受け難き人身を享け

深き縁に結ばれし ともがらも

一人去り 二人去つて

寂寥の思い いとど繁し

愛別離苦の涙 いまだ乾かざるに

春秋は巡りて

はや この法筵を迎えたり

されど

本願を信じ念仏して

安養界に至るものは

真如法性の身を証得し

還相回向の大願に乗じては

生死の園に入り

煩惱の林に遊びては

応化を示すといえり

しかれば道綽禪師は

前に生まれんものは後を導き

後に生まれんひとは前を訪へ

仰せられたり

我らいま

尊き導きによって 法縁に恵まれ

遇い難き み法に値い奉る

希わくは

ここに参詣のともがら

故人の温容を偲んで

己が生命の行方に 思いを任せ

もろともに本願念仏を聞信して

俱会一处の妙果を得んことを

如来大悲を垂れて

哀愍納受し給え